

4.1.13 演習 4.1.3の結果を用いる。

$\text{Gal}(L/Q) \cong D_4$ かつ D_4 について問13

$|D_4| = 8$ 1/1

D_4 の 非自明な部分群 \Leftrightarrow 位数 2, 4 の部分群

(i) 位数 2 の部分群について。 位数 2 の部分群は、

生成元 位数 2 の巡回群と同値なものである。

$\langle r \rangle, \langle r^2 \rangle, \langle r^4 \rangle, \langle r^2, r^4 \rangle, \langle r^2, r^4 \rangle$ とある

(ii) 位数 4 の部分群について。

位数 4 の部分群は、可換群で $(2^2 = 4)$ 有限アーベル群の

基本定理より

$\mathbb{Z}/2\mathbb{Z} \times \mathbb{Z}/2\mathbb{Z}$ か $\mathbb{Z}/4\mathbb{Z}$ に同型

$\mathbb{Z}/4\mathbb{Z}$ に同型な群の場合、それは位数 4 の元を生成元とする巡回群である。

$\langle r \rangle$ とある。

$\mathbb{Z}/2\mathbb{Z} \times \mathbb{Z}/2\mathbb{Z}$ に同型な場合、位数 2 の元 (4 個) を含む。

$\{1, r, r^2, r^4\}$ で構成される。仮に r を含むとすると

$r(r^2) = r^4, r(r^4) = r^2$ とある。この部分群は $\{1, r, r^2, r^4\}$

とある (あるいは、これは実際には部分群である)。

* $r^2 = r^4 r$ を利用すると、 r^4 の形に表すことができる。

r を含む場合について考えると、 r, r^2, r^4 のうちどれか2つを含むとすると

$(r^2)(r^4) = r^6 = r^2, (r^4)(r^2) = r^6 = r^2$ 1/1

r^2, r^4 を含む場合

この部分群は $r^2 r^4 = r^6 = r^2$ 1/1 $\{1, r^2, r^4, r^6\}$ とある。これは実際には

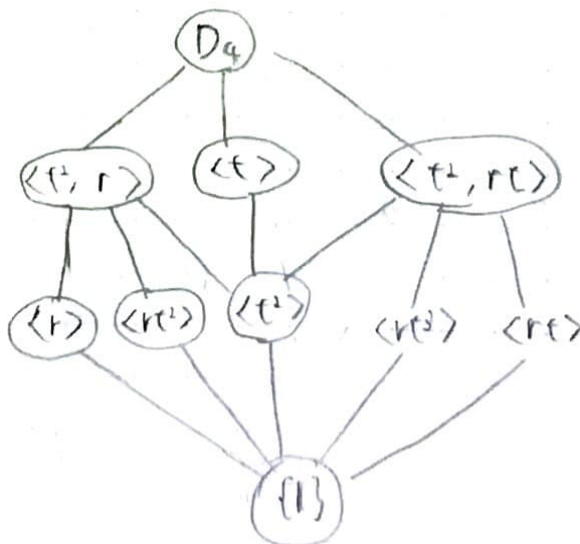
これは実際には部分群である。

r, r^2, r^4 のうちどれか2つを含むとすると、この部分群は $\{1, r, r^2, r^4\}$ とある。

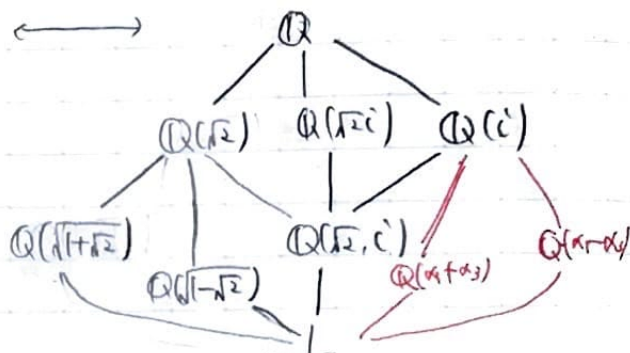
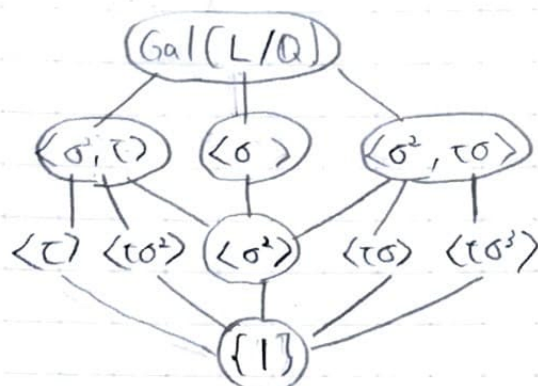
したがってまた $\langle r, r^2 \rangle$ と同じになる。位数 4 の巡回群である。

(iii) 1/1

したがってまた
正則部分群



同型列



例: $\alpha_1 = \sqrt{1+\sqrt{2}}, \alpha_2 = -\alpha_1, \alpha_3 = \sqrt{1-\sqrt{2}}, \alpha_4 = -\alpha_3$

$\sigma, \tau \in \text{Gal}(L/Q)$ は

$\sigma(\alpha_1) = \alpha_4, \sigma(\alpha_2) = \alpha_3, \tau$ は複素共役
 $\sigma(\alpha_3) = \alpha_1, \sigma(\alpha_4) = \alpha_2$ とする。

例: $\sigma^2(\sqrt{2}) = \sigma^2(\alpha_1^2 - 1) = \alpha_2^2 - 1 = \sqrt{2}, \tau(\sqrt{2}) = \sqrt{2}i$

$Q(\sqrt{2}) \subset M \langle \sigma, \tau \rangle$

例: $[Q(\sqrt{2}) : Q] = 2, \text{ 且 } [L : Q(\sqrt{2})] = 4$

$[L : M \langle \sigma, \tau \rangle] = |\langle \sigma, \tau \rangle| = 4$

よって $M \langle \sigma, \tau \rangle = Q(\sqrt{2})$

例: $\tau(i) = -i, \sigma(i) = (\alpha_1 \alpha_3) = \alpha_4 \alpha_1 = -i$ 且

$\sigma^2(i) = i, \tau\sigma(i) = i$ とする。同様にして

$M \langle \sigma^2, \tau\sigma \rangle = Q(i)$

例: $\sigma^2(\sqrt{2}) = \sqrt{2}, \sigma^2(i) = i$ 且

$\sigma(\sqrt{2}i) = \sqrt{2}i$ 且

$\tau(\sqrt{1+\sqrt{2}}) = \sqrt{1+\sqrt{2}}, \text{ 且}$

$\tau\sigma^2(\sqrt{1-\sqrt{2}}) = \tau(\alpha_4) = -\sqrt{1-\sqrt{2}}$ 且

$\tau\sigma(\alpha_1 + \alpha_3) = \tau(\alpha_4 + \alpha_1) = \alpha_1 + \alpha_3$

$\tau(\alpha_1 + \alpha_3)^2 = 2 + 2\sqrt{2}$ 最小多項式は $x^2 - (2 + 2\sqrt{2})x + 2 = 0$ である。

教科書の手法で、証明

証明

証明

$Q(\sqrt{2}), Q(\sqrt{2}i)$

$Q(i), Q(\sqrt{2}, i)$

$M \langle \sigma \rangle = Q(\alpha_1 + \alpha_3)$

$M \langle \tau \rangle = Q(\alpha_1 - \alpha_3)$ とする。